

「水の袋の逢瀬」

〈登場人物〉

・ 女
・ 男

脚本・竜崎だいち

* * *

ラブホテルの一室。

男と女が入って来る。

男、部屋の様子を見て。

女 男
おお……、……こんな感じなんだ。

……。

二人、荷物を置いたり。

机の上には、ラブホテル特有のアイテムがいくつか。

それと、灰皿。

男 女 男
(タバコ) 吸います？

吸いません。

……はい。

会話は淡々と、少ない。

男 女 男 女 男 女 男
……家、……近いですか。

……………なんですか。

いや……。

……。

……あー。えっと。

……、家とか、言わないし。

……あー。

……。

女 男
間。

女は俯き、スマホの画面を見つめている。

男 女 男
……。なに見てんの。

……ツイッター。

……面白い？

男 女

……別に。
……ふーん。

間。

男、ベッドルームを離れ、別の扉を開けたりしている。
部屋に一人きりになった女。

男のいなくなった方向をぼんやりと見ている。

風呂場から水の音が聞こえはじめる。

男、ベッドルームに戻って来る。女と目が合う。

……お風呂。

……。

……入るよね。

……。

女 男 女 男

間。

水の音だけがする。

あの。

……はい。

……なんであんなところに立ってたの？

……。

……いつも……こんなことやってんすか。

……初めてです。

……マジで。

……はい。

…………へー。

なんで声かけたの？

……。

……いつもこんなことやってんすか。

いや……、んー、……まあ。

……へー。

……初めてです。

……へー。

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男

間。

声かける前。ネコ、いたよね。

ああ、あのネコ、会社の駐輪場によくいる猫。

拾って欲しそうに見えた。

大丈夫。あいつ案外遅しくて。

だから、……「拾った」。

……。

……。

猫、触ったことないでしょ。

うん。

だろうね。……そんな目してる人間に、猫は寄ってこないよ。

……。

間。

いくつ？

なんで言わなきゃいけないの。

おれは32歳です。いくつ？

……。

……、

……おなじ。

まじで。

なに。

いや、珍しくて。いま働いてるところでも同じ年の奴とかいなくて。

嘘かもしれないのに、信じるんだ。

あ、あー……、そうね。

そう。

……まあ、うん、そうね、信じるわ。

……ふーん。

信じない理由、ないし。

やるんでしょ。

え。

なに。

いや。

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男

男 女 男 男 男 女 男 女 男 女 男

男 女 男 女 男 女 男 女

そのために声かけたんでしょ。
ああ、まあ。

じゃ。

いや、ちょっと。

なに。

ちよつと、待った。

え。

……あー、えつと、うん。

男、ソファを見て。

座りませんか。

え。

お話しませんか。

なんの。

なんの？ ……なんの……んー。

女、すつとソファに座る。

……。

……あ。(座ろうとするが、立ち上がって)何か、飲む？ ね。

……別に。

本当に？ じゃ、おれだけもらおうかな。

……。

……。

男、冷蔵庫をあける。どこの銘柄か知れない、安そうな水が入っている。

それを一本と、冷蔵庫の上にあったグラスを机に移動させる。

ソファに座る男。

ペットボトルの封を切り、水を、二つのグラスにそそぐ。

グラスのひとつは、女の前に置いてやる。

その間、女は沈黙している。

男、グラスに口をつける。乾いた口が、少し、潤う。

……特に、何かがあったわけじゃないんすよ。普通に仕事して、みんな定時に

男 女 男 女 男 女

男 女 男 女 男

男 女

上がったって、おれはちょっとだけ残業して。だいたい毎日そんな感じで。うん。いつもは一人で仕事すんの、結構好きで。わざと残業したりして。いいドリップコーヒーとか持ち込んで。……ただなんか、なんでだろうな、なんか今日は、……フロアのその景色がすごいさみしかった、……なんですよね。……

非常階段に、よく行くんすよ。あ、うちの会社ビルの7階にあって。あ、喫煙者なんですけど、あ、今は、吸わないですけど。会社、一応、喫煙所はあるんですけど、すごい狭くて、いづらいいから、非常階段で、よく吸ってて。めちゃめちゃ西日が眩しいんだけど、イコール、夕日が見える。結構好きで。よく行きます。……

男 女

非常階段から、川が見えます。ジョギングしてる人とか、犬のさんぼとか、おじいちゃんがゆっくり歩いてたりとか。おいその時間おれにくれよ、とか、思ったり。川つぺりをのんびり歩くなんて、何年やってないかな。たまに、OLさんが昼ごはん食べてたり。仕事終わってなかったけど、今日はもう帰ろうかなと思って。帰る前に一服だけしようと思って、非常階段行って、もう真っ暗だったけど、川を見下ろして。そしたら。……

……。

……。

あの、変な意味じゃないから誤解しないで欲しいんだけど。

……。

いつもはあんな、川のすぐ近くじゃなくて、土手のところに座ってるよね。

……。

……あの。

質問があるんですけど。

なに。

今まで付き合った彼女の、誰か一人にでも、「AVに出てみたら」って助言したことってありますか。

へ。

ありますか。

ない。

そういう助言をする男ってどう思いますか。

……なんで。

何を思ってそんなこと言ったんだと思いますか。

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女

いや……。

上から見てたんですね。

え。……あ、あー、……うん。

いつも、って、いつも見てたんですか。

いや、どうだろうか。タバコ吸いに行つて、フツて下見たら、土手に座ってる

子いるなーと思つて、別に毎日じゃなかったし、たまに見かけて、あ、またい

るなーって、そのくらいで。

見られてたんだ。

いや、あの、変な意味じゃないから、誤解しないで。

そうか。

へ。

わたし、あそこでいつも一人でいるから、いけるって思われたんだ。

は。

だから声かけたんだ。

は。

あんな風に。

あんな風って。

そういうことか……。

え、何。

女、カバンを放つて顔を覆う。

あーあ。

え、何、どしたの。

なんでもないです。

なんでもあるでしょ。

なんでもないから、ほっとけって。

え、何。

……。

……。

女、黙ってしまう。

あ。

なに。

男 女 男 女 男

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女

女 男 女 男 女 男 女 男 女

男 女

女 男 女 男

おれでよかったら、話聞こうか。
いいです。
けど。

女 男 女 男

わたし、人の話聞くの苦手なんで。自分の話したら、人の話も聞いてあげなきゃいけないじゃないですか。苦手なんですよね、人の話聞くの。助言するの。気持ちよくなったら、してあげなきゃ、みたいなやつ。

男 女 男 女 男

あー……。
……（囁いて）もう最悪。
……まあ別にいいんじゃない。
は。

男 女 男 女

別に聞かなくていいんじゃない。人の話。ていうかさつき、聞かれてなかったけど、おれ話しちゃったし。
あ。

女 男 女 男 女 男 女

話すだけでも、ちょっと気が楽になったりするんじゃない。
……別にあなたに話したところで。
おれだからいいんじゃない。
なんで。

女 男 女 男 女 男 女

……ここ出たら、もう二度とおれとは話さないし関わらない、……でしょ。
……。
女、少し黙ったあと。

女

……水の流れを見るのが好きなんです。単純に綺麗だし。周りに緑も多いし、落ち着くし、時間が穏やかな気がするし、……全部流してくれるような気がするし。山より海が好き。夜景とか特に興味ない。夜の海も好き。真っ暗で吸い込まれそうで、先が見えなくて怖くて。でも、その怖いのがたまに見たくなる。
……。

女 男

こんなところですか話じゃないですけど、性欲とか、別に人より強い方じゃないと思います。誰かれ構わずしたいわけじゃないし、仕事忙しい日とか、余裕で明日のこと考えるし。でも、したいって言われたら結局嬉しいじゃないですか。明日のこととか、まあいっかってなるし、自分から仕向けることもあるし。
……。

女 男

言われちゃったんですよねー。なんであんなこと言ったんだろ、あいつ。わたしの何見て、そんなこと言ったんだろ。意味わかんない。下手だから学んでこいってことですかね。それとも、AV女優で大物になれるぐらいの感度とか名

女 男

器とか、そういう意味でいったんですかね。褒められたんですかね。……。

わたしには、誰かれ構わずやってこいって言われたような気がしたんですよ。……ちよつと知りたかったのもあって。こうやって、こういうところ来たら、自分が、ヤツちゃうのかどうか。どうだった。

……言っただけいいんすか。いいよ。

今すぐ帰りたい。

あー、なるほど。

ほんともう、(自分が)最悪。

……。

男 女 男 女 男 女 男

女、頭を抱えてしまう。

男、そんな女を見て。

おれさー、死ぬんじゃないかと思って。

誰が。

あなたが。

わたしが？

だって、あんな真つ暗な川つペリで、女の子が一人で立ってんのよ。危ないって思うでしょ。

川に入ると思った？

思った。

そんなわけないじゃん、パーカ。

なに、いきなり。

言っておきますけどね、女ってそこまで貧弱じゃないから。結構凶太いから。

……たまに本当に弱い子もいるから全員がそうじゃないと思うけど、「あつし弱いのに」って公言してるやつに限って大体強いからね。

じゃ、なんであんなとこ立ってたの。

だから川が見たくて。

あんな近くで？

別にいいでしょ。

いつもは遠くで満足してるよね。

何が言いたいの。

女 男 女 男 女 男

女 男 女 男 女 男

男 女 男 女 男

構って欲しかった？

……はあ!?

……。

何様? ……あんた嫌い。初対面だけど、嫌い。

……おれは、構いたい気分だった。ただそれだけ。だから声かけた。今日じゃなかったら、声かけなかった。だって……傷ついてまーすって、矢印出ちゃってる女の子なんて、基本面倒なだけでしょ。

……そうね。

うん。

けど今日は構いたかったんだ。

そう。そんな気分だった。

なんで。

寂しかったから。かな。

うっそだ。

……誰かに構うことで、優位に立ちたかったから。

あわよくばヤれるかと思ったから。

それも大いにある。

言うんだ。

いうよ。

……正直でいいと思う。

ありがとうございまーす。

……。

けど、やりたったのは、2割ぐらいかな。7階からあなたの背中が見えて、瞬間カバン持ってエレベーター乗ってた。1階に着くまでの時間が、あんなに長いと感じたことなんか、今までなかった。

……。なんであんな風に声かけたの。

おれ、なんて声かけたっけ。

マジで。忘れたんだ。

「コーヒー好きですか」

覚えてるんじゃない。

だって考えてみて。全く知らない人に突然声かけるんだよ、どうしようって悩むじゃない。うちのビル、エレベーター降りたところに自販あるでしょ。買うじゃない、コーヒーを2本。で持っていくじゃない。んで。

一本買ったら、もう一本当たっちゃって。

キタコレ、スマートな声のかけ方。

男 女

男 女 男 女 男 女

男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女

男 女 男 女 男

女 どころが。不自然。

男 そうかな。

女 超不自然。

男 けどあなたの返事ときたら。

女 「わたしそれ飲めません」

男 これだもん。

女 ほんとのことだから仕方ないじゃん。自販の甘甘の缶コーヒーは苦手なの。ちやんとドリップしたコーヒーだったら好き。別にコーヒー嫌いじゃないからね。

男 あ。そうなんだ。

女 耳を疑ったよね。まるであいつとおんなじ声のかけ方するんだもん。

男 あいつって。

女 だから、AV出してみれば男。

男 そんな言い方しなくても。

女 彼氏。

男 ……あ。

女 おんなじように缶コーヒーを差し出されて、受け取ったら、ちよっと冷めてて、飲めない缶コーヒーにちよっとだけ口をつけて、そのあと、川歩きながらちよっとだけしゃべった。あんまり口聞かないタイプの、やんちゃな感じのお兄ちゃんだったけど、よくよく聞いたら、一コ下だった。そのあと、売れ残りの花火をコンビニで買って、花火禁止って書かれてる公園でちよっとだけ花火して、その日は別れた……。ラブホテルには行かなかった。

男 あ、そうすか。

女 悪いやつじゃないのは、分かってる。好きなどこ、いっぱいあるし。だから、

男 こんな気分になるんだろうし。あーあ。

女、置かれた水に口をつけて。

男 ぬるい。あ。お風呂。

女 あ。

女、風呂場に駆け込む。わー、とか声が聞こえたあと。

水の音が消える。女戻ってくる。足をタオルで拭きながら。

男 大丈夫だった。

女 男
すっごいあふれてた。
マジで、大丈夫？ 床とか。

男、椅子から立ち上がり、様子を見に行こうとする。
それは事故のようなものだった。
ぶつかるとようなスピードで、二人の身体が、近づくと。
立ち止まる、ふたり。距離は吐息がかかるほど、近い。

女 男 女 男 女
……。
……。
……排水溝に全部流れてた。
そう。
……。

女、身体を離す。

男 女 男 女
……なんか、喋ってくださいよ。
え、おれ。
うん。
えー……あー……えーっと。

男、少し黙った、後に。

男 女 男 女 男 女 男
実は。……おれ、……草食系なんです。
え。それ自分で言う？
いや、あの、えー。……そういう、軽い意味じゃなくて。
え。
前の彼女と。そういう理由で、別れてます。
あ。

女 男 女
……周りのやつに言っても、共感してくれるやつ、今までにあんまりなくて、
最近じゃ「草食系」って便利な単語があるから、そう言ってるけど、昔はそん
なのなくて、だから、……いや、だから、なんだって話なんですけどね。
いえ。
なんか、すんません。
なにが。

男 女 男 女 男 女 男

そんな奴が、こんなところで何やってんだって感じですよね。
失礼な事聞くかもだけど。男の人が好きとか。

全然。女の人が好きです。
勃たないとか。

本当に失礼だな。

ごめんなさい。

やろうと思ったたら、全然できませんよ。ただ、興味が薄いとか、面等だとか、そんな感じ。女の子の体はやらかくて好きだし、触れていたいとは思うんですけどね。

……。

……。

……。

出ましょっか。

え。けど。

だって、……ねえ。

……。

彼氏とは、どうすんの。別れる？

……もう少し考える。

うん。それがいいよ。

男、立ち上がって荷物を持つ。

あの。

何。

……。

別に、何か言わなきゃいけない事は、ないと思うよ。

……。

人の話聞くの、助言するの、苦手でしょ。無理しなくていいよ。

……名前は？

え。

名前、教えてください。

なんでも言わなきゃいけないの。

え。……あ……。

……行こう。

勝手ですけど、気まぐれかも知れないですけど。

男 女 男 女 男 女 男 女

女 男 女 男 女 男 女 男 女 男 女

男

女

……。
今は何も言えないですけど。けど、何か言いたって思ったから、……今はその欲求に正直になってみます。

男

そんな気分だったんだ。

女

そう。気持ちよくさせられちゃったから。仕返ししたいし。

男

……。

女

……。

男

……支払い、どうする。

女

え。

男

ああ、こういう時は男が出すのか。

女

割り勘で。

男

分かった。

女

……。

男

名前。ここ出してから教える。

女

え。

男

この場所では、なんか、知らない人同士の方がいいでしょ。

女

女、改めて部屋を見る。

男

そこは、ラブホテルである。非日常に空間が広がっている。

女

……そうね。

男

あなたも、名前教えてください。

女

なんで言わなきゃいけないの。

男

え。

女

仕返し。

男

あのさ、あなたって性格悪いよね。

女

まあね。けど、知ってる人はあんまりいないよ。今の彼氏も、きつとこんなわたし

男

の姿、知らないと思う。

女

……。

男

お先。外で待ってる。

女

女、先に部屋を出ていく。男、その後ろ姿を見つめる。

男

続いて、男も去る。

幕

【上演記録】

満月動物園・羊とドラコ共同製作

「愛欲巡遊社」 ～13の物語、7つの部屋を巡る演劇ツアー～

●日時

2018年10月18日（木） ～ 21日（日）

●会場

ホテル千扇（ちせん）

大阪市都島区東野田町3-7-4

京阪本線・JR環状線・東西線「京橋」駅より徒歩3分

●出演

男 ツジコウイチ（コッコア）

女 西村朋恵（こまち日和）